

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	城東区
学 校 名	大阪市立中浜小学校
学校長名	松下 幸子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・中浜小学校では、第6学年24名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科の平均正答率は全国の平均正答率と比較すると4.7ポイント、大阪府とは3ポイント下回る結果となった。内容を見てみると、特に「話すこと・聞くこと」で全国との差が見られた。

算数科の平均正答率は全国と比較する0.4ポイント下回り、大阪府とは同水準の結果となった。内容を見てみると、特に「変化と関係」の領域で全国と差が見られたが、一昨年度より課題として進めてきた「数と計算」の領域で、経年的に進めてきた指導の結果が現れ、本年度は全国平均を6.5ポイント上回る結果となった。

国語科、算数科共に無回答率は全校平均を下回っており水準としては低かったが、算数科については3.1ポイントとなり、回答時間は十分でしたかの質問に17.3ポイントの児童が否定的な回答をしていた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 学習指導要領の内容を見てみると特に「話すこと・聞くこと」において全国平均と差が見られた。昨年度の課題として取り組んできた「情報の扱い方」では、今年度全国平均を上回ることができた。評価の観点を見てみると「知識・技能」での正答率が「思考・判断・表現」に比べて高く、基礎学力での正答率が高い傾向となった。また、問題形式を見ると、記述式の正答率が全国平均を上回り、平均無回答率が全国平均より大幅に低い結果となった。昨年度から積み重ねてきた自分の考えを書く取組が定着してきた結果と考えている。

〔算数〕 評価の観点を見てみると「知識・技能」が大阪府平均を上回る結果となり、「数と計算」の領域で全国平均を上回るなど基礎学力の定着が着実に進んでいると考える。昨年度の結果から課題となった「思考・判断・表現」の向上については、昨年度より向上したものの全国平均にはわずかに届かない結果となった。また、算数科においても、平均無回答率が全国平均を下回る結果となり、国語科と同様に自分の考えを書くことについての取組みが定着してきていると考えている。

質問調査より

児童質問紙の結果を見てみると、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して肯定的な回答が95.7%（最も肯定的な回答52.5%）、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の肯定的な回答は100%となり、経年的な課題として取り組んできた自己肯定感の向上について一定の成果が出ていると考えている。また、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法をきめていますか」の肯定的回答でも100%となり、本年度の研究主題を話し合う活動とした成果が出ていると考えている。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の最も肯定的な回答は73.9%（肯定的な回答95.6%）となり、いじめについての指導を継続していく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

全学年単学級の小規模校ということもあり、交流を広げることができるよう縦割り班活動を活発に行う。今後も継続して互いの違いを認め合える仲間づくりに努め、豊かな心の育成と自己肯定感・自己有用感の向上に繋げていく。

学校の授業以外に、普段一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）の質問に対して、2時間以上と答えた児童の割合は17.4%、1時間以上は34.8%となり、家庭で学習する時間が少ない児童の割合が多くみられる。そこで、ICTの活用を推進し、デジタルドリル「navima」に加え、スタディサプリやも本年度から活用している。自主学習ノートの推進も組み合わせた個別最適な学びを進めると共に、児童が興味・関心を持って学習に取り組むことでできるように進めていく。

児童質問より

質問番号

質問事項

1

朝食を毎日食べていますか

1

2

3

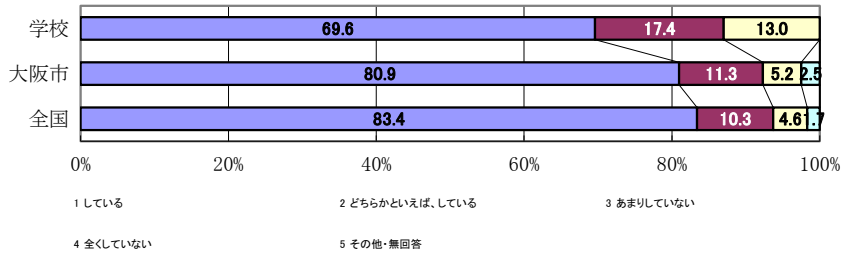
4

5

6

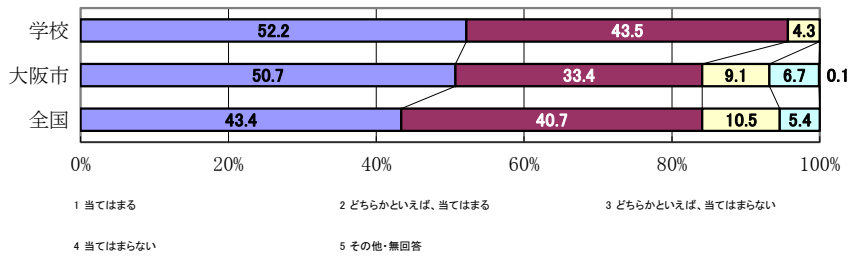
7

8



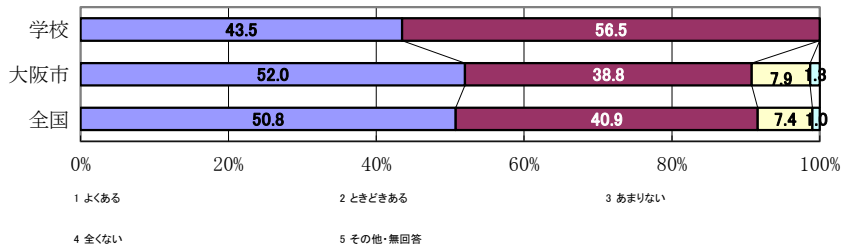
9

自分には、よいところがあると思いますか



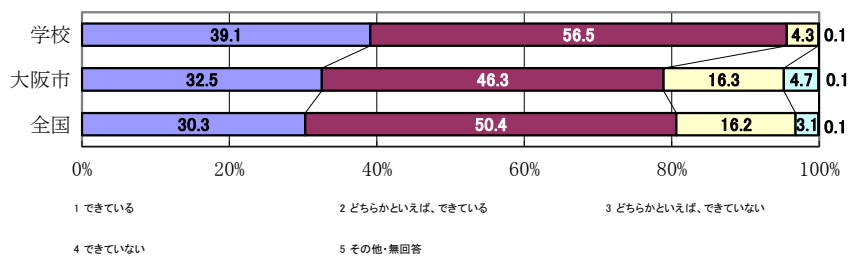
19

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



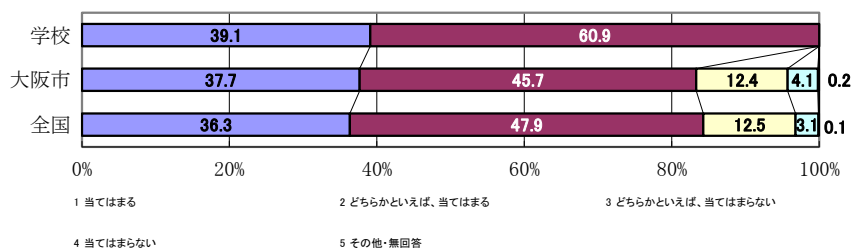
20

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



39

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



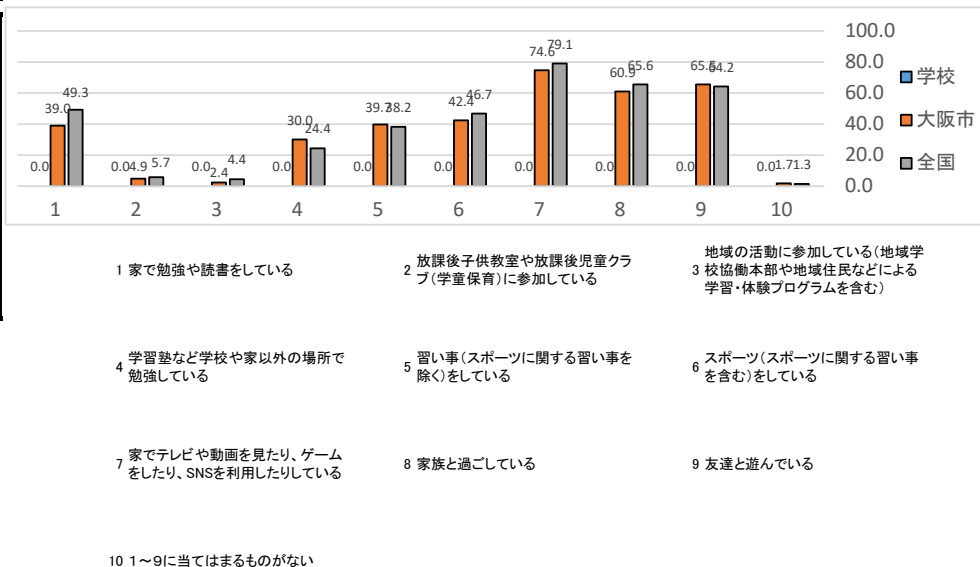
児童質問より(26)

質問番号

質問事項

26

放課後や週末に何を
して過ごすことが
多いですか
(複数選択)



学校質問より

質問番号

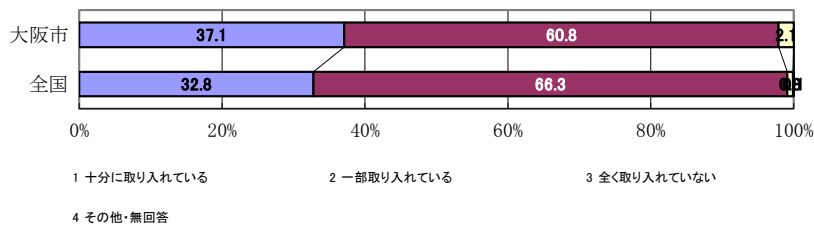
質問事項

11

ICTを活用した校務の効率化
(事務の軽減)の優良事例を
十分に取り入れていますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

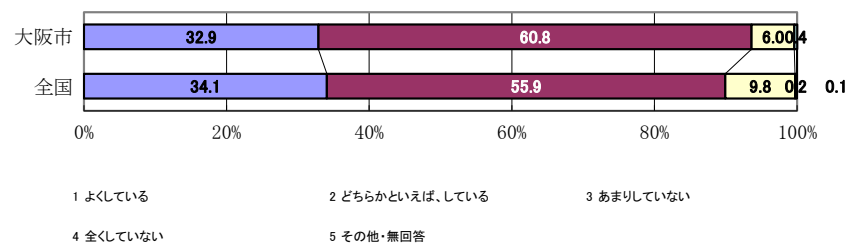
学校 「十分に取り入れている」を選択



17

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

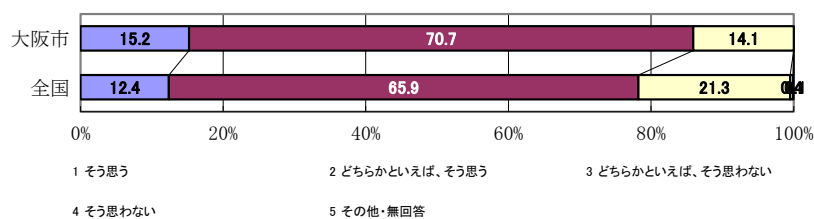
学校 「よくしている」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

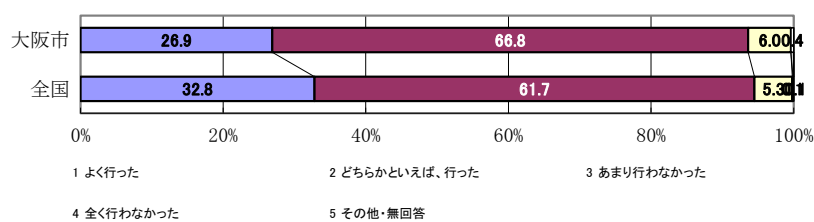
学校 「そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「よく行った」を選択



63

教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか

学校 「よく活用している」を選択

